



V-J Day kiss mural by the Brazilian street artist Eduardo Kobra

タイムズ・スクエアと劇場街

1945年8月14日に撮影された写真『V-J Day (Victory over Japan Day/対日戦勝記念日)』で有名な Glenn McDuffie 氏が今年3月にダラスで亡くなりました。当時アメリカ水兵だった McDuffie 氏が看護師女性とタイムズ・スクエアでキスをしている場面をとらえたアメリカ在住のドイツ人報道写真家 Alfred Eisenstaedt によるその写真は、終戦を象徴する1枚として非常に有名です。

私がタイムズ・スクエアに行くのは、ブロードウェイ劇場街で仕事をするときか舞台を観るときですが、現在のタイムズ・スクエアは、約70年の時間を経て『V-J Day』で見られる光景とは随分と変わりました。42丁目から47丁目までのブロードウェイが歩行者天国となり、LEDを使用した広告や看板が辺り一面を昼間のように明るく照らし、まるで「タイムズ・スクエア」と名付けられたテーマパークのようです。

現在ある約40のブロードウェイ劇場のほとんどは、同じようなスケジュールで運営しています。公演日が月曜日を除く毎日であるように、長い間月曜日が劇場休館日である習慣が定着していたようです。しかし、最近はテクニカル・リハーサル(テック)期間中に限って人件費の高い日曜日を休館日とするスケジュールが主流となってきました。副業を持つ

ほとんどのデザイナーは、テック期間中のスケジュール管理が要となります。彼らの副業は教職である場合が多く、休館日の変更は彼らのスケジュール調整をやや難しくしました。

約2週間から3週間のテック期間中、午前9時から午後12時までは直しやドライ・テックが行われ、午後1時から午後10時または午前12時まででテックが行われます。午前中にドライ・テックが行われない限り、照明デザイナーは午後から出勤しますが、その場合、午前中はアソシエイトとアシスタント照明デザイナー主導の下、ユニオンの照明クルーとともに直しが行われます。主な休憩時間は午前10時15分から15分間のコーヒー・ブレイク、午後12時から1時間の昼休、そして午後5時または午後6時から1時間の夕休です。休憩時間は近くの劇場で働く仲間と会いに行ったり、彼らと一緒にタイムズ・スクエア近辺のレストランでご飯を食べたり社交の時間として利用されています。

『V-J Day』と現在のタイムズ・スクエアにおける最大の違いは、私のような日本人が不自由なく歩き、付近で仕事ができることです。ヘイトスピーチがないわけではなく、遠回しに「国に帰れ」と言われることもあります。それでも何かしら常に困難を回避する方法が見つかることが、現在のニューヨークの特徴でしょう。